

いとう
伊藤

おさむの市民ニュース

ホット・ホット・越谷

発行責任者：高橋 正久

平成15年1月1日発行 No.4

〒343-0838 越谷市蒲生三丁目七番七号

TEL 048-985-4826 FAX 048-989-2397

E-mail osamuchan@ae.wakwak.com URL http://www.ae.wakwak.com/~osamuchan

迎春

新年あけまして
おめでとうございます

第38回越谷市元旦マラソン大会が、
開催され、2003年1月1日午前10時
の合図と共にスタートしました。

当日は、1,400人余りの市民が参加し、
10km・5km・3km・1kmなどのコースに分
かれ、「走り初め」を楽しんでいました。

参加者の中には、「去年の不景気を、振
り払うために走るんだ」という人や、「毎
年これが我が家の中」など、
それぞれの思いを込めて、走っていました。

元旦の越谷市役所前

午前10時スタート

新しい風

そのような議会にしていくために、
私達市民が問われていることは、何
よりも世代交代であり、能力と行動
力を持った人材を送り出すことであ
ることを、真剣に考えて私達は選
択しなければならない。

四月、統一地方選挙の意味は、二
十一世紀の日本の政治を地方から今
度こそ本当に変えていくことである。
そのことを、真剣に考えて私達は選

先ず、二十一世紀の日本の地方政
治に、どんな変化を創り出せるかで
ある。ご存知のように、今日の地方
行政は、財政・分権・合併等、様々
な課題を抱えている。これらの諸改
革に、どれだけ取り組むことが出来
るかで、そのまちが魅力的で安心し
て暮らせ、且つ、安全で住みやすい
かが分かるようになる。

これらの、新しいまちづくりに議
会がどう関わり合い、改革に向けて
知恵や、情熱を示すことが出来るか
は、これまでの受身的なものではな
く、問題意識を持ち、イニシアチブ
を持った行動的な議会にしていかな
ければならない。

今年、四月に行われる統一地方選

昨年の11月9日に、伊藤おさむ後援会結成総会が越
谷サンシティ一結婚式場で、伊藤さんを応援する200
人余りの人が参加し盛大に開催されました。

伊藤さんの若さと行動力をもって、市政で活躍してもらいたいという声に応えるべく、今年4月の統一地方選
挙において、伊藤さんは強い意思と信念の下、越谷市議
会議員に立候補を予定しております。その、政治活動を支
え、支援して行く体制を作っていくとの趣旨で、後
援会が結成されました。

一部は、河内晴子さんの司会で進められ、「伊藤さんの
志をみんなの力で実現しましょう。」と太田あきさんが開会の挨拶で協力を呼びかけました。

さらに、呼びかけ人を代表して、鶴岡昭二さんが、「若くて行動力のある伊藤さんの様な人にこそ
市政で活躍してもらいたい。」と激励しました。



会則や、これから活動について、氏家金重事務局長
から説明があり、一人でも多くの人の協力を得て、伊藤
さんを支援して行く体制を作っていくとの提案が
ありました。

伊藤さんの決意表明では、「私が、このたび統一地方
選挙に立候補予定を決意した理由は、地方から日本の政
治を変えて行きたいという強い決意からであり、それは、
政治に希望と信頼を取り戻すことは言うまでもありま
せんが、政治改革なくして日本の未来はあり得ないと実
感したからであります。地方における政治改革の核心と
いうのは、地方議会の改革であり、政党の自己改革であると考えます。そして、市民の政治参加の土
壌を作っていくことだと考えております。私の政策は、高齢者や体の不自由な方に対する安全で安心
できる地域社会づくりであり、子供達の教育環境を学校・家庭・地域で協力していくネットワークづ
くりだと考えております。そして、地域の人々とが助け合い、支え合う優しさと、信頼を持ったコム
ニティづくりであります。この、私の決意（思いやりのまちづくり）に、皆様の熱いご支援とご
協力をお願ひいたします。」と熱く語りました。

閉会の挨拶は、中野美恵さんが「これからは後援会を
中心として、皆さんと一緒に力を合わせて活動をしてい
きたい。」と締め、一部を終わりました。

二部の懇親会は、佐藤義之さんの乾杯で始まり、
来賓の方々のご挨拶と、和やかな歓談や抽選会などで、
大変な盛り上がりとなりました。

最後に、伊藤さんの友人の大越美津子さんと、田辺仁司
さんによる、「ガンバロウ！」の力強いコールで、会場
全体が一つになり、幕を閉じました。



伊藤おさむ後援会 結成総会



地域を知るシリーズ No.3

住民に喜ばれている街の中を走るバス！

昨年、12月14日から蒲生地域に、新路線バスの運行が開始され、地域住民に大変好評なことから、その経緯や現状、バス会社側の悩みなどを聞いてきました（以下、朝日自動車（株）役員の方からのインタビューです）。

一年ほど前に、地域住民の署名（9800名）を集め、バス路線の開設を要望し、その結果、蒲生（蒲生駅）一川柳（南体育館）間にバスの運行が開始されるようになりました。しかし、幹線道路の渋滞がひどいため、利用者が少なく、採算が合わないので廃路線になろうとしていました。このような事態を何とか打開しようとバス会社では、住民の声や、関係者とも話し合い、存続なり、路線変更などを検討してきました。そして、誕生したのが南越谷（駅南口）一川柳（南体育館）間の路線です。

バス会社が、ルート設定した条件は、【民家が多い・地域住民のニーズ・バスが通れる道・採算ベースが何とかクリアできる】等がありました。これらを可能としたのは、これまでの運輸行政が規制緩和され、ルート設定などが自由になったことからだといいます。



とはいっても、問題がないわけではありません。住宅街を走ることや、狭い道を通ることは、いつ事故を起こさないとも限らないからです。そんな、不安を解消するには、運転手の教育は勿論のこと、警察にも協力を要請はしていますが、地域住民の皆さんのが駐車違反や運転マナー、子供の飛び出しなどの安全を守ってくれることが何よりです。と語っていました。

最後に、高齢者や、障害を持った人達に対する対策を伺いました。現在、越谷駅一越谷市立病院間を、日に何本か車椅子で乗れるバスを運行していますが、完全に定着している訳ではありません。その大きな理由は、駅周辺や停留所の環境整備が整っていない（バスに乗せることは出来ても降ろせる場所がない）ことであるといいます。

利用者の声

- ◎家から近いところに乗り場が出来たので、出かけることが出来るようになった。
- ◎南越谷につながったことは、とても便利になった。
- ◎時間通りに来ないので、計画が立てられない。
- ◎狭い道路なので、運転手さんも大変だと思うけど、自分達用のバスであることを考え、事故防止に皆で協力したい。



～世代交代は時代の流れ～

先月行われた、韓国大統領選挙が私達に与えた衝撃は、新たな時代を切り開くのは、自分達若い世代であることを、若い人々自らの行動力で示したことありました。その若いパワーは、韓国社会に強固としてあった「地域主義」「権威主義」といった政治風土の壁を越え、「戦後政治」から「新しい政治」への転換を進める、画期的な現象を作り出しました。

朝鮮戦争も、光州事件も知らない、そして、政治にも関心のない「平和ボケ世代」ともいわれる20代の若者が、政治に関心を持ち参加し、自分達にも何か変えることが出来るという希望を持ち行動したことが、大きな変化を作り出し、あのワールドカップの時以上の感動を再び味わったのです。

さて、日本の若者達は、日本政治の絶望的な状況に抗して立ち上がり、日本にも「希望の政治」を取り戻すことが出来るのだろうか。それが試されるのは、4月の統一地方選挙です。政治に関心を持ち、参加し、共に戦うを通して、自分達自身の変化と「希望の政治」を作り出したいと思います。

千間台在住 鈴木さん



伊藤 あさみの

～バリアフリー検証～

今回私は、越谷市内のファミリーレストランを尋ね歩き、バリアフリーの現状を見てきましたが、中でも、国道4号バイパスと越谷・岩槻線が交差する場所にある、とんでん南荻島店が一番やさしいお店でした。越谷市内のファミリーレストランの中には、健常者であっても入りづらい所がありますし、段差を無くしても、介護者がいないと入れないと入れないような場所がほとんどでしたが、とんでん南荻島店は違いました。

まず、店の入口にはインターホンが取り付けられており、スタッフが介護者代わりの役割を果たしてくれるため、車椅子に乗り、余計な気を使わずに一人で食事をすることが出来ます。また、段差を無くすことや、スロープを取り付けることはもとより、雨が降っても滑らないタイルを使用するなど、ちょっとした心遣いに感激しました。

この様な取り組みは、「大衆の中に、より深く豊かで楽しい生活の提供」という会社の経営理念を誠実に希求しているといえます。

越谷市のファミリーレストランが、すべてこの様なバリアフリーになるには、会社側の判断に任せただけではなく、行政側からの的確な指導やアドバイスが必要なのではないでしょうか。

